

距離を表し、 (1965年)記念碑を建てましれかって左側の敷地20坪ほどの所 当時は街道の両側にあり、 Ų 旅人などの目印になっていま街道に一里(4キロ弱)ごとの

3所に、昭和40年 現在は京に向

「五ヶ荘用水路跡」 淀川より水を取り入れ田畑などに水を引いて いました。

「口を守ること、瓶の如し」…

稿の名の由来

瓶橋跡。江戸時代

算用で建設された意

残って に村人が、 ものを、 元々、 を支配していた代官が命名した 歩くと[瓶橋] がありました。 めばし」と書い といわれています。 橋にしました。 「盛泉寺」から55メ 土橋(木造りの橋)だった 嘉永元年(1848年) 私財を出し合って石 名前は当時守口 た橋柱が2本 現在は「か



「発言は慎重にするべし」 という意味

守口宿でも数少ない江戸時代の名残を感じさせる古びた石畳の坂 道です。旧奈良街道(約1200年前に管基によりつくられたと言わ

れています)へと通じる幅1メートルほどで、 「右ならのざきみち」の小さな道標があります

この道は「難宗寺」へも通じており、大名行 列が鉢合わせなどのときは、この道から「難 宗寺」へ避難したと思われます。



奈良へと続く石畳の小道



瓶橋付近で青木家

は丸亀という屋号で呉服店

を営んでいたそうです。

娘の森本明子さん(左)

青木公子さん(右)

豊臣秀吉がこよなく通ったと される守口。吉田宅庭には、 秀吉が足休めにしたと伝えら れる遺石が残っています。

や「あかぎれ軟膏」がよく売れまし明治初期の看板で「葛根湯(風邪薬)」

幸司さんに継がれています。 研究会の創立時に長年尽力さ 昭さんの業績は大きく郷土研究 の歴史文化の普及に尽力されて の文庫として地域の れ、その遺志は息子である吉田 に情熱を燃やし、 たのが吉田家で、 薬屋「吉田長寿堂」として反映し 「竜田文庫」を立ち上げ、 ます。 守口市文化財 先代の吉田義 人と共に 守口宿 街



浜町の角に、宿場役人で、代々

ましたこうじ 吉田幸司さん

問屋役人·吉田為五郎邸

前まで江戸時代当時(築約180年かり様変わりしましたが、数年文禄堤沿いの街並みは、すっ 散歩部会報」を作成して 驚きます。 の呉服店)の家系に生まれまし 年にも及ぶ守口宿の茜屋(当時 けてきた西田崇さん(92歳)。40前)の面影が残る家屋を守り続 ある地を散策されており「歴史 92歳とは思えな 今も歴史にゆかりの い活動力には

旧松下電器の技術部門で活躍さ

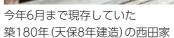
続きます

色んなものを残し、 の文禄堤への想いはこれからも 復活させたい、と語る西田さん は変わらない。 入れた設計にし、 せる外観や、 成は来年で、 自身で設計した家を建設中。 も現役で、 に気をつけたといいます 街並みは変わったが、 ソコンはお手の物。 茜屋があった地にご 当時の造りを思わ 中二階造りを取り 自分がいる間に 文禄堤の景観 修復させ、 歴史 現在

完



信





江戸時代、茜屋で売買されていたこと を示す古文書



守口宿をPR(宣伝)する加藤忠廣さん

"守口の歴史は消えることがない。守口の歴 史の一里塚として次代につなぐことを強く感じ ています。夢は東海道を世界遺産に!市内外の 皆さんにも守口市の魅力を知ってもらいたい そう語ってくれたのは、加藤忠廣さん。守口市 の歴史を伝えていくため、文化団体のボラン ティアとして立ち上げた[守口門真歴史街道推 進協議会」で積極的に活動され、守口市の歴史 を発信していきます。

る地にしたい を残しながら、

この建物

ンボル地となるよう、

夢に向

昔の面影

かってこれからの文禄堤を支え

行らせることで人が集ま 地で写真を繁栄させ、

承しながら、文禄堤が守口のシ

3代目の息子さんに技術を継



卯建や虫籠窓のある宿場町の面影が 残る建物 (三好写真館)



三好章さん。先代から使われている 約100年前のアニソニーカメラ

います。 を持ってるからこそ、を壊したくない。守口 したい、と強い想いを持たれて (遺産)を残. この時代に生か 守口市に愛着 レガシー

堤の地に先代が写真館を昭和22年、現在の文禄

2代目である三好章さん。 開いた[みよし写真館]の

*夢はこれから。

ここ

2016.12.1 ◆広報もりくち